

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400155		
法人名	特定非営利活動法人 権利擁護あさひ		
事業所名	グループホーム ぴあ出石		
所在地	兵庫県豊岡市出石町福住317		
自己評価作成日	平成25年	評価結果市町村受理日	2013年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	peeri.zushi@coral.pl.a.or.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成25年6月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは 3大介護といわれる「食事」「排泄」「風呂」の介護の基本を大切にします。老化の過程は赤ちゃんの発達の逆で、視覚・聴覚が衰えが始まりますが味覚と皮膚覚は最後まで残る感覚とされています。老人のケアはスキンシップと同様おいしいものを食べることが大切だと考えています。幸い当ホームには近所の方やご家族から旬の野菜を提供していただいています。柿・冬瓜・かぼちゃなど食べなれた材料を頂いています。いちどご賞味ください。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は年齢、性別、障害、国籍の枠にとらわれず、誰もが公平に福祉サービスを受ける権利を擁護し、地域福祉の推進を目指し、そのために社会的条件や困難を地域住民と協働して解決していくことを掲げている。開設前からよろず相談の機能を備えた居場所を通して交流の場が生まれ、発端となり「ぴあ出石」は地域の福祉拠点として立ち上がった。代表者のふるさとでもあるこの地にかける思いと、人と人とのきつな強い地域の特性を活かして、認知症になっても地域で支え合っているしきみを構築していくとしている。施設の垣根を越えて職員自らが積極的に事業所を開放し、利用者の能力を活かした楽しいイベントや気軽に立ち寄れる企画等、新しい取り組みにも意欲的である。利用者の生き生きとした笑顔を地域の活力として、今後の地域の発展にも寄与されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①事業所の理念の勉強会、及びビデオ学習、を行った。②玄関に理念の表示を行っている	法人理念として誰もが普通に生きられる社会を、地域住民との協働により実現することを掲げている。職員は利用者にとってのあたりまえを日々の生活の中から探り、その思いの実現を目指している。代表者及び管理者は、理念を常に会議等で職員に伝え、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	① している ② 地区会議絵の参加や各種イベントの参加地域住人からの畑の借用など	地域の行事だけでなく、小学校の運動会観戦や登下校時の挨拶など子どもとの交流は利用者の楽しみとなっている。事業所主催の行事も多彩に行い、昨年1周年記念の夏まつりは、多数の近隣住民が来訪し盛況であった。地域交流会「さくら」の再開も予定している。	事業所を開放しての多様な取り組みは評価される。同様に地域に積極的に出かけていく取り組みにより、さらに双方向の交流が進むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	① 12月に地域の人たちに呼びかけた餅つき大会。8月に納涼祭。地区交流センターのイベントで日頃の歌の披露や作品の展示		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	① 実践している	町会及び民生の代表者、社協、家族、利用者が出席メンバー。事業所は毎月の行事、利用者の様子を報告している。夜間想定消防訓練実施の際の課題についてや、新しい取り組み等を報告し、前向きな意見交換となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	① ややできている。② 事業所として困った事例、事故報告、等の時のみしか連携できていない	定例の地域ケア会議で他事業所も含めた意見交換を行っている。開設以来、事業内容や事故事例等を報告するなど現状を伝え、必要に応じて相談もしている。地域の中で事業所が求められる役割について、市との協力のもと検討していくことを考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	① 学習会や研修会を通し、身体拘束に当たる行為について周知を図っている。② 資料を職員が閲覧できるようにしている	月1回の職員会議、月2回の定例会で、具体的な事例をもとに、拘束の定義等基本的周知の徹底を図っている。利用者の個別状況により、やむをえず玄関の施錠をすることもありますが、見守りを強化して対応している。日常的に外に出る機会を設けるよう努めている。	利用者の閉塞感軽減のための継続的な取り組みを、さらに期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	① 努めている。② 社員研修での学習会の実施 ③資料を職員が閲覧できるようにしている	身体拘束同様、会議等で事例を通じて職員への周知に努めている。利用者への抑制等の行為や言葉かけ等を職員自らが気付き、改善していくことを重視している。管理者から職員に声をかけ個別に話しを聞いたり、職員からも気軽に相談してもらえよう普段から心がけている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	① 学習の実施。② 職員が資料を閲覧できるようにしている	職員への学習会を実施し、制度内容等の理解を図り、資料等も整備している。これまで該当者はいないが、管理者は本人、家族の状況により情報提供の必要性を理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	① 実施している	管理者は法人理念を重視した説明を心がけ、利用者の自立支援についての理解に努めている。費用や退居に関することについて個別の状況に応じて説明している。わかりやすい言葉で伝え、家族の不安や質問には特に事例を提示するなどして納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	① できている。② サービスに関するアンケートの実施	普段の家族来訪時及び行事参加の際には、家族の意向を受け話しを聞くようにしている。家族アンケート実施から利用者のリハビリや医療に関する要望が挙がり、検討した。感染症の実例を通して、家族との協力体制が生まれ、情報の共有につながった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	① 行っている ② 毎月定例会を開催しその場で意見、提案を聞き反映している	会議では職員からの意見や提案を促し、年齢や経験に関わらず誰もが発言しやすい雰囲気にも努めている。職員からの意見や提案が主体的に取り組める体制作りと、チームとしての良好な協力関係を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	① 行っている ② 年2回の賞与の支給 ③ 各職員に担当利用者を決めて、カンファレンスの担当を順番に行うなどを通して仕へのやりがい、向上心を持って働けるよう工夫している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	① 行っている。② 定期的な職員会議、介護技術研修。③ 法人以外の研修への積極的参加の機会を実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	① 余り行っていない。② 地域的にそのような機械や場がない		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	① 行っている。② 入所後3か月はとりわけ信頼関係の形成を中心にし本人の話を傾聴、受容することを中心に行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	① 行っている ② 個別計画の作成と1か月のホーム内での様子、ニュースレターなどで様子を知らせる。③ 電話等での対応など		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	① 努めている ② 家族との面談の上介護計画書に反映し実践している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	① している。② 一緒に食事の手伝いをしてもらう。③ 本人の能力に応じた日常的な活動を(畑作業、縫い物など本人好きなことを職員も一緒に行いながら利用者に教えてもらうなど相互に高め合う関係の形成を図っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	① 行っている ② 利用者の家族に了解をとり、他の入所者も一緒に「お宅訪問」を実施		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	① 行っている。②なじみの寺への訪問や墓参り、親族宅への訪問、入所以前に行っていた美容院に行くなどを行っている。	本人の意向や情報を基に汲み取り、家族の協力を得て継続した支援につなげている。近所の人や友人の来訪を家族の協力を得て働きかけることもあり、職員も利用者と一緒に身内や馴染みの友人を訪ねて行くこともある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	① 行っている ② 利用者同士がソファで一緒に過ごす場の設定や共同作業の呼びかけ実施など。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①あまり行っていない。②相手の側の気持ちを配慮し積極的には行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	① 行っている。②生活歴を重視しながら本人の希望を聞きながら個別計画の作成を毎月提示し実施している。	利用者一人ひとりの思いや希望をケアの基本と捉えている。日々の生活を通じた利用者の表情や動向、会話から推測し、微妙な変化にも注意を払うことで本人の思いを探っていくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	① している。② サマリーの作成と職員全員が把握できるよう開示している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	① 行っている ②日常的なケアの中で職員が気づいた利用者個人の能力や心身の状態を午前、午後の申し送りを行いながら全員が把握してケアできるようにしている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	① 定例会や事例検討、ケアカンファレンス、サービス提供者会議などを通して行っている。	利用者個々の日々の状況からケアのポイントや留意点を個別プログラムとしてまとめ、本人の心身生活全般の一覧とし、会議等で職員間で共有している。本人のこぼれに現れない思いをもくみ取れるよう、家族を巻き込みながら本人本位の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	① 実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	① いる ② 「帰宅願望」が強い利用者に対して、買い物と一緒に行って気分転換を図ってもらうなど柔軟に対応している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	① している ② 公民館の活用 ③ 図書館利用など		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	① している ② 本人や家族の希望を優先し、ホームの連携医療機関以外を受診する場合も多くある。	以前からのかかりつけ医を主治医としている利用者もいる。遠方の方は、近くの医院を紹介。受診は原則家族が同行する。家族が行けない時は自費で事業所が同行。受診時は利用者の状況を口頭で家族に伝え、結果も家族に確認を取っている。協力医の往診はなく、電話で相談し、救急車を呼ぶこともある。	早期退院及び退院後の回復のためにも医療との連携が不可欠である。運営推進会議で病院関係者との関係作りについて検討され、医療機関へ協力の働きかけをされてはいかかが。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	① あまり行っていない ② 訪問アKんご事業所が少なく依頼しても来てもらえない。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	① 行っている。 ② 通院時の職員の同行と入院時の付き添い、サマリーの交換など	常時介護サマリーを記録しており、入院時は速やかに提供できる。退院にあたっては、担当者会議は開かれず、退院サマリーと看護師から最低限必要な情報を得て、退院の受け入れ準備する等、医療との連携は不十分で、医療行為をとまなう利用者の退院には苦慮している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	① 行っている ② 延命治療への家族の意向の把握。③ 主治医との話し合いなどを行っている。	これまで看取りは行っていないが、現在看取り対象者がいる。主治医の指示のもと家族、事業所で最期をどう迎えるかについて話し合っている。職員は利用者の希望に添いたいと考えている。本人の不安をやわらげるため、一日一日をよりよく生きることの支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	① いる ② 緊急時対応マニュアルの作成と掲示訓練の実施。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	① いる ② 避難訓練、消火訓練を消防署と共同で行っている。	近隣へ事前に協力の呼びかけを行い、4月に夜間想定で避難訓練をした。当日近所の一部に非常ベルが聞こえなかったが、3家族が駆けつけ手伝ってくれた。職員はとても心強く感じた。早速外に向けた非常ベルを増やした。水害時の避難場所は過去冠水した建物になっているので、今後市へ検討を働きかけていく予定。	水害時の避難場所は、事業所のみならず、地域の問題なので、運営推進会議でも検討されてはいかかが。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	① 常に行っている ②「あかん」などの否定語は社内の禁止用語として指導している。	人生の先輩に対して、行動や思いを否定することは遣いをしないことを徹底している。入浴、排泄の介助は、希望に応じ同性介助で行い、羞恥心への配慮に努めている。一日の過ごし方や私物の取り扱いも、個々の習慣や意向を尊重して対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	① 行っている ②「縫い物やるけどやってみる」などの声掛けのし本人の意思を確認してから行う仕方を定着させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	① 充分のはできないがなるべく本人の希望に添えるよう工夫している。②「家」に帰りたいとの訴えがある場合は職員の都合をつけて自宅を訪問するなど。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	① 行っている ② 好きな服を選んでもらっている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	① 行っている ② 野菜の皮むき、などできる範囲で手伝ってもらったり、味付けしてもらったりしている。また、職員も一緒に食事をしている	食材は配達と、必要に応じて利用者と共に近所へ買い物に行く。普段は調理担当職員と共に下ごしらえや味見をする。週1回は利用者手作り料理の日で、お好み焼きやカレー等を三角巾を頭に利用者中心で調理している。食事中は、職員と話しがはずみ、楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	① している ②食事量、水分量は毎日個別のテック表に記入し、職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	① 行っている。 ② 歯科衛生士の訪問、指導を受けながら、口腔ケアを実施		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	① 行っている。② 排泄チェック表の記入、トイレ誘導に向けた定時的な声掛け、介護を行っている。	安易にオムツに頼らず、個々の生活のリズムに沿ったトイレでの排泄を支援している。夜間もポータブルトイレ利用や声かけでのトイレ排泄で、排泄の自立がなされている。各自のパット類も各トイレの棚に収納しており、羞恥心への配慮もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	① いる ② 排便チェック表で確認し、便秘が続いている場合は、食事量、水分量で調整し改善しない場合は医師の処方での投薬などの手順で行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	① あまりできていない ② 入浴時間は介護が必要な利用者に関しては、入植時間を設定し行っている。	3時から夕飯まで、毎日希望により入浴できる。介助が必要な方は、時間を決めているが、他の方は希望の時間に入浴している。拒否の人には、声かけの職員やタイミングを代え、入浴につなげている。場合によっては足浴も行う。入浴の楽しみの一つは職員との会話。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	① 行っている ② 夜間におきている利用者に対しては夜勤の職員が一緒にお茶を飲んだりして、個々の睡眠のリズムに対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	① 行っている ② 処方箋をファイルし職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、利用者に対しても必要があるときは処方箋の内容を代読している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	① 行っている ② 散歩の習慣、農作業の習慣、縫い物の仕事、などそれぞれの生活歴を参考にしながらホームでも継続できるよう工夫している。また、嗜好品についてもコーヒーがいいかお茶がいいかなど本人の嗜好に合わせて提供		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	① 行っている。② 買い物、毎月豪華な食事会の実施。(ホテルのバイキング、地域の少ししゃれた店での食事など)	歩行訓練を兼ね、近くを散歩している。野の花を摘んだり、川まで足を伸ばしたり、自然いっぱいの環境を満喫している。毎月の外食は、おしゃれをして非日常の楽しみとなっている。他にも歌舞伎鑑賞、昭和初期の歌を聴く会、花見や花火等四季の変化も楽しむ支援もなされている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	① 行っている ② 本人の訴えに応じ財布に入れて買い物に行ってもらうなど臨機応変に対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	① 行っている ②「家族に電話してほしい」との訴えがあれば電話し、「ばあさんのことが心配」との訴えがあれば自分で手紙を書いてもらい投函するなどの支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	① 行っている ② 掃除の徹底化 ③ 毎月のカレンダーづくりなど	ゆったりとした共有空間に緑豊かな光が窓からさしこみ、利用者は楽器演奏や歌を楽しんだり、軍手を使った人形作りや雑巾縫いなど作業もしている。向かいの和室はホッとできるスペース。庭にある菜園で気分転換をする人もいる。トイレ、浴室も広く、居心地良く過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	① している ② 畳で炬燵に入ってトランプしたり転寝をしたり、居室で過ごしたりしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	① している ② 本人の在宅時の大切なものを持ってきてもらったりしている	タンス、椅子、テーブル等馴染みの家具を持ち込んで、その人らしく過ごせる工夫がなされている。持ち込みの少ない人には、事業所でテーブルを用意している。若いころの写真を持ってきてもらい、居室で職員と一緒に写真を見ながら、思い出話が弾む工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	① している ② 自由に庭に出られるよう玄関のスロープ、階段の手すりの設置、居室のネームなどを行っている。		